

JST 社会技術研究開発センター「科学技術と社会の相互作用」プログラム
「地域社会主導型科学者コミュニティの創生」研究開発プロジェクト
第1回フィールド研究会のご案内

「地域社会主導型科学者コミュニティの創生」プロジェクトがいよいよ始まりました。プロジェクトの全体像を共有し、今後の課題と研究開発のロードマップを参加者のみなさんと共有することを目的に、下記のように第1回フィールド研究会を開催いたします。同時に、「長野大学恵みの森再生プロジェクト」における知識生産のありかたなどを題材に、問題解決に適した科学研究のスタイルについて議論を深めます。日程はできるだけ多くの方にお集まりいただける日を設定しましたが、ご都合が合わなかった方々には申し訳ありませんでした。議論の内容については、後日共有をはかると同時に、できる限りウェブページで公開いたします。有意義な議論を深めることができることを楽しみにしております。

記

日時：2008年11月14日（金曜日）13時30分から、11月16日（日曜日）12時30分

会場：長野県上田市下之郷 長野大学 4号館 304 会議室

<http://www.nagano.ac.jp/outline/access/index.html>

宿泊：上田東急イン <http://www.uedatokyuin.com/guide.html> 事務局で予約済みです。

プログラム

11月14日（金）：（午前10時ごろから、16日にご都合が悪い参加者のために、3日目の議論を前倒しして顔合わせを兼ねたインフォーマルなミーティングを企画しています。10時ごろに到着が可能な方は、16日の出欠にかかわらず、お気軽にご参集ください。参加なさる方はメールでお知らせください。）

13時30分：集合（上田電鉄別所線、13時10分上田発別所温泉行に乗車、大学前駅でお降りください。大学前駅までお迎えに行きます。）

13時40分～14時10分：開会挨拶・自己紹介・プログラムとロジスティクスのご案内

14時10分～15時10分：

「地域社会主導型科学者コミュニティの創生プロジェクトの概要」

研究開発代表者 佐藤 哲（長野大学環境ツーリズム学部）

15時10分～16時10分：各グループの研究開発の概要

「レジデント型研究機関を中心とした科学者の変容の実態把握」グループ

グループリーダー 鎌田磨人（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部）

「ステークホルダーと科学者の相互作用と協働の実態把握」グループ

グループリーダー 家中 茂（鳥取大学地域学部）

「地域環境学ネットワークの形成を通じた科学者コミュニティの変容」グループ

グループリーダー 佐藤 哲

16時10分～16時30分：休憩

16時30分～17時15分：「ステークホルダーのみなさんに期待すること」（説明と討論）

説明・司会：佐藤 哲

17時15分～18時00分：総合討論

（18時27分大学前発別所線で上田駅に移動。ホテルチェックイン）

19時30分～：懇親会（鯉西 <http://www.koinishi.com/>）

11月15日（土）研究会「問題解決のための知識・制度のありかた」

9時30分集合（9時8分上田駅発別所線にお乗りください）

9時30分～11時00分：

「里山再生のツールキット—問題解決に役立つ知識セットのありかたの検討」

佐藤 哲・高橋一秋・高橋大輔（長野大学環境ツーリズム学部）

11時00分～11時30分：討論

11時30分～13時00分：昼食・野外実習準備

13時00分～15時00分：恵みの森における水辺創出実習に参加

高橋大輔（長野大学環境ツーリズム学部）

15時00分～15時40分：里山再生ツールキット見学

高橋一秋（長野大学環境ツーリズム学部）

15時40分～16時00分：休憩

16時00分～17時30分：

「海洋保護区設計の多様性—地域の固有性に対応した保護区制度の検討」

鹿熊信一郎（沖縄県八重山支庁農林水産整備課）

17時30分～18時30分：総合討論

コメンテーター 松田裕之（横浜国立大学環境情報研究院）

「知床世界遺産などにおける科学の役割から」

11月16日（日）

9時30分集合（9時8分上田駅発別所線にお乗りください）

9時30分～10時30分：

「研究開発のロードマップの提案—協働のガイドラインとステークホルダー参加型研究評価システムの構築に向けて」

佐藤 哲

10時30分～11時00分：討論

11時00分～11時10分

11時10分～12時40分：総合討論

プロジェクトの全体像について

研究開発の目標と手法の妥当性について

ステークホルダーのみなさんの参加のありかたについて

ロードマップに基づく各グループの研究開発計画について

協働のガイドライン構築のアプローチについて

ステークホルダー参加型研究評価システムの設計について

参加予定者リスト

佐藤 哲	14-16日	長野大学環境ツーリズム学部
松田 裕之	14日夜-16日	横浜国立大学環境情報研究院
高橋 大輔	14-16日	長野大学環境ツーリズム学部
鎌田 磨人	14-16日ト	徳島大学大学院ソシオテクノサイ エンス研究部
家中 茂	14-15日	鳥取大学地域学部
牧野 厚史	14-16日	滋賀県立琵琶湖博物館
高橋 一秋	14-16日	長野大学環境ツーリズム学部
三輪 信哉	14-16日朝	大阪学院大学国際学部
大西 秀之	14-15日	同志社女子大学現代社会学部
鹿熊 信一郎	14-16日	沖縄県八重山支庁農林水産整備 課
白川 勝信	14-16日	芸北 高原の自然館
澤田 俊明	14-16日	[有]環境とまちづくり、及び NPO 法 人コモنز(徳島県)
勝瀬 真理子	14-16日	徳島県立千年の森ふれあい館
垣花 薫	14-16日	慶良間海域保全連合会、あか・げ るまダイビング協会
与儀 正	14-16日	八重山漁協
福島杏子	14-15日	JST 社会技術研究開発センター
研究補助	14-16日	長野大学環境ツーリズム学部

水辺創出実習の概要

高橋大輔（長野大学環境ツーリズム学部）

1) 目的

長野大学が立地する塩田平は年間降水量が極めて少ないため、農業用水の確保のために古くからため池を作る文化が根ざした土地である。平地だけでなく、森の保水力を利用して森林内にため池が作られた場所も多い。森林内水域は、生活史の一時期に水辺を利用するトンボ類などの昆虫やカエルなどの両生類、そして湿地を生育場所とする植物など、水場を必要とする生物が森林内で生活することを可能とする。よって、塩田平の伝統的なため池文化は、森林における生物多様性を高め、地域独自の森の恵みを創出する役割を担ってきたと考えられる。

今回は、文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」選定プロジェクト・「森林の生態系サービスの活用を学ぶ環境教育」履修学生を対象に、長野大学恵みの森において、地域の伝統的なため池造りの手法を受け継ぐステークホルダーの方々の指導を受けて、ため池造りの実習を行う。

2) タイムスケジュール（予定）：

13：00～13：15 実習の説明（4-103 教室）

13：15～13：25 グループ分け（参加者を3グループに分ける）

13：25～13：35 恵みの森に移動

13：35～14：40 ため池作り実習：作業項目は、1）ため池予定地の草刈り、2）池掘り、3）池掘り時に出た粘土による土手作りの3つ。各グループにそれぞれ一つの項目を担当してもらい、並行して作業を行う。

14：40～14：50 4-103 教室へ移動

14：50～15：00 実習のまとめ

3) 参加形態ならびに当日の服装など

プロジェクトの皆様には、ため池作りも含めて実習に参加して頂くのが楽しいのではないかと思います。また、地域の方々に伝統的な土手づくりの手法などのご指導をいただく予定ですので、作業の合間に地域の参加者のみなさんにご歓談していただくのも有意義でし

よう。ため池作りへの参加を希望される方は、池づくりの際に泥などで汚れると思いますので、汚れても良い服装や靴（長靴が望ましい）、軍手などをご準備頂ければ幸いです。池づくりに参加されない方も、その後の見学の際には森の中を歩くことができる服装をご用意ください。小雨でも実習を行う予定ですので、天気が怪しい場合は雨合羽などの雨具もご用意ください。